

第Ⅰ回 男鹿市総合計画策定協議会

日 時:令和7年7月2日(水)15時30分～17時25分

場 所:男鹿市役所3階 第一会議室

― 次 第 ―

1 開 会

2 市長挨拶

3 委員紹介

4 事務局説明

男鹿市総合計画策定協議会設置要綱について

5 会長及び副会長の互選

6 案件

(1) 現行の総合計画等の進捗状況について

(2) 男鹿市総合計画策定方針 について

(3) 総合計画の構成等について

(4) 総合計画 策定スケジュールについて

7 その他

8 閉会

—第1回男鹿市総合計画策定協議会議事録—

1 開会

■ 事務局（進行）

本日は、お忙しい中お集まり頂き、誠にありがとうございます。

始めに、委員の皆様への委嘱状の交付でございますが、本来であれば一人ずつ手渡しをさせていただくべきですが、時間の都合上、大変申し訳ありませんが、お席の方に付けさせていただきましたので、よろしくお願いいたします。

また、本協議会における審議内容等については後日議事録を作成し、ホームページ等で公開をさせていただきたいと考えております。

これに伴い、議事録作成のため会議内容については録音させていただきますので予めご了承ください。

議事録については、発言に係る委員の個人名は記載せず、「会長」「委員」「事務局」等で記載し、発言の要約は行わないこととしたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

それでは、ただ今より、第1回男鹿市総合計画策定協議会を開会いたします。

本協議会は今年度末で現行の総合計画の推進期間が終了することから、来年度からを推進期間とする次期総合計画を策定するため開催するものでありますのでよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進めてまいります。

2 市長挨拶

■ 市長

皆さんこんにちは。今日はお忙しいところお集りいただき大変ありがとうございます。男鹿市総合計画は非常に大切な、男鹿市の根幹となるものです。どうか硬くならず、皆さんには忌憚のない意見をお願いします。

今男鹿市はいろいろな課題を抱えています。男鹿市に限らず日本中同じですが、私は希望も持っています。この総合計画が完成しましたら市民の皆さんへお配りしたい。そして子々孫々へ男鹿を残していく。そういう夢を持って取り組めるような、そのような幸せを感じるような内容の計画を、皆さんと協力して作っていきたいと思います。

最近、うれしかったことがあります。先日、全国男鹿駅伝競走大会を開催しました。その内容をYouTubeで配信しましたが、1万4千人くらいのアクセスがありました。そのコメントの中には、「男鹿を初めて知りました」「男鹿の景色は素晴らしい」「男鹿に行きたい」というコメントがありました。男鹿駅伝はスポーツの行事ではありますが、観光面の切り口でもあります。いろんなことを発信できるんだと、駅伝も観光の切り口になるんだと改めて感じました。

また、先日は大阪万博の expo 広場、これは1万人くらい入る広場ですけれども、ここに

なまはげ太鼓を連れていき盛り上がりました。オープニングで Ado が出演しましたが、それに次ぐ盛り上がり、観客動員だったそうです。それだけナマハゲ人気がある。今回は東北六魂祭の一環でしたので、ほかの東北の祭りも一緒に行きましたが県庁所在地の市は 100 人以上のスタッフを連れて準備をしていました。男鹿はわずか 10 数名で、一番の盛り上がりを得ました。コスパが非常にいいと、ナマハゲ行事のすばらしさを全国に発信していければなと思いました。日本人の忘れた心を持った伝統行事、地域愛、郷土愛、優しさとか思いやりとか礼儀正しさとかそういうのを広めていきたい。

私はいつも言っていますが、男鹿は人もいい食もいい、そしてナマハゲの伝統文化があるけれども、一番いいのはおもてなしの心だと思っています。そういうことをなんとか大事にしていければと思っています。教育長が先頭になってあいさつ運動をやっています。きちっと返事をしようとそういう運動が、おもてなしの心作りの原点ではないかと思っています。

私は女性委員が半分以上いるこういう協議会は初めてですが、どうか委員の皆様の活発な意見に期待していますので、よろしくお願いします。

3 委員紹介

■ 事務局（進行）

ありがとうございました。

4 事務局説明

■ 事務局（進行）

次に、本協議会の設置要綱について、事務局から説明いたします。

■ 事務局（担当）

「男鹿市総合計画策定協議会設置要綱」説明

5 会長・副会長互選

それでは、次第の5の「会長及び副会長の互選」でございしますが、いかがに取り計らいましょうか。

「事務局一任」の声あり

事務局一任の声がございしますが、事務局から会長及び副会長をお願いするということではよろしいでしょうか。

会長が決まりましたので、ここからの議事の進行は、本協議会設置要綱第5条第1項の規定により、会長からお願いいたします。

■ 会長

会長の職務を務めさせていただきますこととなりました。

委員の皆さまのサポートを頂きながら、微力ではございますが、委員の皆様の意見を反映して、男鹿市の総合計画がより良いものとするために努めてまいりたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

委員の皆様には、活発なご発言をお願いできればと存じます。

■ 市長

委員の皆様には会長の出身地もお話してください。

■ 会長

はい。私出身地が男鹿市北浦の出身でして、高校進学を機に秋田市へ転居しましたが、実家には母親が健在ですので、毎週北浦へ帰って来ております。よろしくお願いいたします。

6 案件

■ 会長

それでは案件に入ります。

最初に案件の(1)「現行の総合計画等の進捗状況について」事務局より説明願います。

■ 事務局（担当）

資料 1-1、資料 1-2、当日配布資料に基づき「現行の総合計画等の進捗状況について」説明

■ 会長

案件(1)の「現行の総合計画等の進捗状況について」事務局から説明がありましたが、質問や意見がありましたらお願いします。

発言の際は、挙手の上、ご発言いただきたいと思います。

■ 委員

ごみの問題に関してですが、今アマノではフードドライブという取組を行っています。家庭の食べる機会のないまま眠っている食品を集めて食支援が必要な方へ届けるという取組で、同じような考え方で市での取組が出来ないかと考えています。皆さんメルカリの仕組はご存じだと思いますが、必要ない方から必要な方への売買の仕組で、ジモティというもっと身近な範囲でまだ使える物をお互いやりとりする仕組みもあります。市全体でこのような取組をすることで、ごみの排出量を減らすことが出来るのではないかと考えます。先日、五城目・井川方面へ行った時に、ハピネットのピンク色のコンテナを設置し、そこへ資源ごみを集める取組を見ました。こういう取組を男鹿市でも出来ないかと考えます。

■ 会長

秋田市でもハピネットの運営するごみの回収する場所があります。そこは金属ごみや古新聞の回収しており、そのごみを処分した得た収益はハピネットの収益になる仕組みのようですが、市民の側からすればごみを無料で廃棄でき、ハピネットにとっても収益に繋がるという双方にとって有益な仕組みだと思います。このような取組を男鹿市ではどのように考えていますか。

■ 当局

フードドライブに関しましては、秋田フードバンクと提携し、市へ寄せられた食品に関しては、支援団体へお配りするという取組は実施していますが、なかなか集まりは悪い状況です。

また、まだ使える物はリユースという考え方だと思いますが、その仕組みづくりというのは、

先の6月定例会でも議員さんから指摘があり、アプリの業者へ内容・状況確認をしてリユースの仕組みづくりを検討していくこととしています。

コンテナを設置してごみ集積所として、市民の方からゴミを集める取組に関しては、お話のあった五城目の事例等を調査して検討を進めてまいりたいと考えていますのでよろしくお願いします。

■ 委員

ゴミに関してですが、商工会女性部でも空き缶のプルタブを集めて車いすへ換えて市に寄付する活動をしています。古着を集めて能登半島へ送ったりもしています。いろいろ活動しているが、まだ活動の周知が不足していると感じています。

市の各コミュニティセンターでも古着を回収しているが、一般市民がコミュニティセンターに頻繁に行くわけでないので、やはりスーパーなどで実施するのが効果的だと思います。会計が終わったところにボックスを設置して買い物客が一番目につく場所へ置いてあります。

■ 会長

市でも取組を行っているが周知が不足しているようです。

■ 委員

空き家バンクの取組についてですが、空き家バンクを利用した移住も件数としては増えているようですが、契約されたことはいいが、そのまま管理がされていない場合もあると聞きます。

契約され空き家ではなくなったがそのまま放置される場合の対策も必要ではないか。売れたからそれで解決ではないと思います。買った人が、その後その空き家を利用して定住まで繋がるかも考えていかないといけないのかなと感じています。市として対策を考えていれば教えてください。

■ 当局

正直、今の質問に対する市の取組はまだまだ出来ていないのが現状です。空き家バンクは金額が低く設定されている物件も多いので、安く買われて別荘的な使い方をする人もいます。

また、買って一旦は住んだけれど、すぐいなくなってしまったという案件も聞いています。考え方によっては廃れていく一方だったものが、たまにでも来て管理していただければ維持はされることと考えておりますが、管理されていない状況で近所の人困っているという話もありましたので、これに関してはもう少し問題意識を持ちながら検討を進めてまいりたいと考えています。

何か情報がありましたらお知らせ願いたいと思います。

■ 会長

他に意見が無いようですので次の案件に入りたいと思います。

次に案件の(2)「男鹿市総合計画策定方針について」説明をお願いします。

■ 事務局(担当)

資料2に基づき「男鹿市総合計画策定方針について」説明

■ 会長

只今説明のありました案件(2)の「男鹿市総合計画策定方針について」質問や意見をお願いします。

■ 委員

一番最後に出たパブリックコメントの実施についてですが、コメントを募集している旨を市民へ広く周知しないとあまり意味のないものになってしまうのではないのでしょうか。掲載場所が、市役所事務室、市 HP、各コミュニティセンターとなっているが、これではあまり集まらないのではないかと思います。例えば、市の防災行政無線でパブリックコメントを実施している旨を放送するとかして市民に広くお知らせするべきだと思います。

■ 委員

総合計画の構成について、まちづくりの2と3の項目の分け方について、「命と健康を守る」というのと「安全・安心なまちづくり」というのは内容が重複しているのではないかと感じます。例えば、2-4 の「消防・救急体制」や 2-5 の「防災・危機管理」はまちづくり 3 の「命と健康を守るまちづくり」へ入れた方がしっくりくる感じがします。同じような事がほかの項目でも感じていて、5つのまちづくりの分類と其中的の取組事項を調整する必要を感じます。人を守るのとまちを守る違い等で区分しているのかもしれませんが。

■ 事務局(担当)

今回の資料で示した構成と取組の分類は、現行の計画を参考に企画政策課で作成した暫定的な内容となっています。現在、各所管課で作成した具体的な取組内容の原稿を確認中ですので、その内容を見ながら、構成や分類も調整していきたいと考えています。今回はあくまで現時点の暫定的な構成で今後構成・分類は修正されることをご了承ください。

■ 当局

先ほどパブリックコメントの指摘もございましたが、ご指摘のとおり今この総合計画に限らず、各種の計画を策定する際にパブリックコメントを実施させていただいているが、ご指摘のとおり集まる意見が少ないというので課題となっております。これに関しては我々としても市民の声を集めるための方策が必要だろうと考えておりますけれども、市民への周知という面では、市の広報で記事を掲載することや、テレビ回覧板での周知等のいろいろな手段でやっていきますのでよろしくお願いします。

■ 副市長

先ほどの委員のご指摘はごもっともで、我々とすれば委員がおっしゃっていたように2番が社会資本の整備的な生活環境に関わる取組項目で、3番はダイレクトに市民に関わる福祉・医療・介護という分野で分けはしたところですが、この5つのまちづくりのタイトルが中身と一致していない部分、うまく表現できていない部分も確かにあります。この辺は工夫・修正を加えないといけないと思っています。おっしゃるとおり、2番と3番の境目の分けがあいまいになっている。4番の子ども・教育は、男鹿市としては力を入れて取り組んでいる項目ですので力を入れてやっていきますが、2番と3番は再度構成を確認します。

■ 会長

それでは私からも1点、市政懇談会で総合計画の内容も説明するとのことですが、それ以

外にも男鹿市内で起業した人や、新規就農した人等の、がんばっている若い人の意見を聞く場も必要ではないかと感じますが、そのような事も考えていますか。

■ 当局

この資料に記載されたこと以外にも、若い世代の意見の吸い上げというものは重要だと考えており、市長と膝を交えて意見交換を出来る場の開催を考えています。先ほどの担当の説明にもありましたが、今回の計画には市民の意見の反映というものが大きなテーマとなっていますので、多様な方法で市民の意見の収集に努めます。市役所は今までそのようなことを苦手としてきましたが、いろいろな手法を検討していきますのでよろしくお願いします。

■ 会長

次に案件の(3)「総合計画の構成等について」説明願います。

■ 事務局(担当)

資料3に基づき「総合計画の構成等について」説明

■ 会長

只今説明のありました案件(3)の「総合計画の構成等について」質問や意見ををお願いします。

■ 委員

昨日広報が届いたので記事を見たのですが、男鹿市の子育ての取組は充実していると感じます。

また、人口減少対策もいろいろされていると思いますが、「人を死なせないようにする取組」も必要ではないかと思っています。若い人を呼ぶことや、子どもを増やすことも重要ですが、人が死ぬことが人口減少の一番の理由でもあると思うので、市民の食育も必要だと思います。例えばオガールの商品は観光客向けの値段で高いなと感じることもあるので、男鹿市民の特権としてオガールのクーポンや割引券を発行して市民への活用を図れば、オガールにとっても市民にとってもいいことではないかと思っています。

■ 委員

その割引分を市の税金で補填しなければならないので、その分は考慮しないといけなくなります。

■ 委員

JA カードを持っていれば、オガールは割引になるみたいですが、JA カードを持ってる人はあまりいないと思います。JAL カードではなかった。そういう市民割引があれば、観光客だけでなく、市民の利用も増えると思います。オガールは新鮮なものがたくさんありますし、それが地産地消に繋がり、市民の健康へ繋がるのではと思います。

■ 当局

貴重なご意見ありがとうございます。今、例として生鮮品の魚介類の値段のお話がありましたが、実は別の意見もありまして、逆に値段が極端に安すぎるという意見も我々の方へ届いています。私たちもスーパーで市況といいますか同じくらいの魚の売値を確認したりもしますが、じつは破格の値段だったりすることもあります。これは漁師さんが自分の商品を自分で値段を付ける仕組みとなっていて、業者の方とも話しますが、男鹿の漁師は値段の付け方を分かって

いますかと聞かれることもあります。この品質でこのサイズであればこの値段はおかしいですよ、もう少し値段を上げることで漁師の手取りも増えるということもあるので、持続的に生業を続けていくためにはもう少し値段設定をしっかりとの方がいいですよとお話されることがあります。これらのお話を踏まえて考えますと、適切な品質の商品に適切な値段を設定すること、これぐらいの鮮度の物をこのぐらいの値段でお出ししているということのアピールの不足があるため、消費者から割高感を感じられたり、逆に値付けが分かってないんじゃないかという指摘になっているということもあるので、その辺はオガールの方ともお話ししていきたいと思いました。市民向けのクーポンや割引というお話もありましたが、いい取り組みだなと思いました。委員からはそれに対する補填という実務的なところの指摘もあり、そういうこともあるなと思い聞いていましたが、オガールは男鹿市の産品を集めた場所でもありますので、市民向けの取組を行うことは当然そうだと思います。取組の具体的なことは別としても、市民に応援される取組が必要だと思います。要は観光客にだけ向いた施設ではなく市民にも目を向けた施設であって欲しいとお話だと思いますので、このあとオガールの方ともお話しして市民に応援される取組について検討を進めてまいりたいと思います。

■ 委員

昨日わたしの方で観光客向けのナマハゲをやっている関係で、あるホテルの男鹿の食材を使った料理の試食会へ行ってきましたが、オガールからの食材も多数ありました。とても美味しく、男鹿産の食材の発信という面で、私の知っている農家でとにかくトマトが美味しい、他のスーパーにはもっと高く出荷できるが、男鹿のために安くオガールに出しているという人もいます。そういう人もいる中で、この資料の中にもありますが、新規に起業された企業や農家には各種補助や支援もありますが、既存の業者や農家に対する支援が少ないと感じます。

男鹿からの発信は多くなってきているが、男鹿市民への還元という面では少ないと思います。昨日ホテルの人ともお話しして、男鹿はとても魅力いっぱい男鹿を発信しているが、最近新しいホテルもいっぱい出来て、そちらに泊まる人も増えているが、私たちは男鹿を発信することで、ホテルに泊まってもらい、男鹿にいいイメージをもってもらうように頑張るとお話をしていました。既存の農家や企業やホテルも頑張っている中で、計画では「若者が活躍するまちづくり」となっているが、若者だけが活躍してもだめで、地元の年配者が頑張っているから若者も活躍できるんだと思います。

子育ても日本一を目指しているとのことで、今回も重点戦略になっているが、この4月に若美ベビー園が開園されましたが、その時点では開園できる状態ではありませんでした。駐車場は整備されていなくて、送られて来た子供が雨が降ってぬかるんだ駐車場でバスから降りたり、保護者の車に乗ったり泥だれけの靴で。そういうのを見て、私整備に携わる業者の関係者だったものですから破格の値段で、敷地に碎石を敷いたり応急処置をしましたが、冬になって雪降ればまたどういう状態になるのか心配しています。

■ 当局

実際観光なり、オガーレの産品なり、そういうものが男鹿市民にどれだけいい影響を与えられているか、そういうものの発信力が足りないなと感じています。観光産業というものは、裾野が広い産業だと言われています。農業にも漁業にも住んでいる市民にも効果が波及することを期待される産業と言われています。実際それがどのくらい我々市民に及んでいるのかということをお伝えできていないと感じています。先ほど前から農業を営んでいる人にどのような効果があるかということですが、そういった方がこれからも持続的に農業を続けていくために、オガーレというものが適切な値段でそういう人の商品をピーアールして売り切っていく、地元の男鹿市民の方にそれを買っていただき喜んでいただいて、仕事を続けていくための手助けをするということが我々の役割だと思っています。地域のいいものを出してそれを専門のプロとして市内外の人にしっかり売っていく。そういうことが地元の生産者に対する支援になると考えています。

今まで続けてきた人への支援という面では、立ち上がりに対する支援、やはり物事の始め、立ち上がりが一番大変だと思います。立ち上げて 2~3 年続けることが大変でそこを越えれば自走できることが多いと思います。そういうこともあるので、市では立ち上がりに対して重点的に支援するということはあるのですが、今根付いていることに対する支援というものも重要だと思っています。両方の取組が大切だと考えていますので、既存の事業者・農家にもどのような支援ができるのか、この計画でも考えていきたいと思っています。

■ 教育長

若美ベビー園に関しては、若美幼稚園だった頃は今の駐車場が子どもの遊び場でありました。4 月 1 日からはそこが保護者の駐車場となったわけですが、その時点ではまだ従来のままの状態、雨が降るとぬかるむ状態でした。そこを業者さんからは破格の工事費で整備していただきました。今後は早め早めの対応をとっていきたいと考えておりますので、お年寄りの方も当然大事ですが、これからの男鹿を担う子ども達の一人ひとりが男鹿の宝ですので、いい環境で育ってほしいと思っています。何か不便がありましたら我々の方へもすぐ連絡をいただきたいと思っています。

■ 委員

保育園の敷地に、松くい虫で枯れた太い松の木がありまして、危ないと思っていましたが、人の敷地の木を勝手に切るわけにはいかずにいたら、財政課の方で調査して伐採したようです。市の職員が自ら行うことをすばらしいと思いました。市の職員にしておくのがもったいない。

■ 市長

商売の原点は「近くの者が喜ばば遠くの者が来る」だと思っています。オガーレを開設するときに反対する人が多くいました。近くの商店街の人はほとんどが反対でした。なぜかというライバルが増えると利益が減るとされていました。そういう時代ではないんですね。プレイヤーがいっぱいいい方がいいんですよ。オガーレが出来た時、私が心配したのが冬に出荷する野菜があるかという心配でした。漁師もだいぶ収益が上がっています。男鹿が商売するのは、男鹿限定ではなくて国境はないと思っています。男鹿は人口減少していますが、交流人

口でカバーしていく。来るものは全部ウェルカムです。最近潟上の市長がうれしいことを言っていました。旧天王町の人々の買物は船越のスーパーであるから、潟上市でバスを運行することを検討すると言っていました。こども園に市外から来るのもウェルカムだし、そういう気持ちでやっていますから、皆様と議論してすすめていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

■ 委員

雑談的な話になりますが、私はオガールの魚は本当に安いと感じています。私が市外の人へお土産も持っていくときはオガールで魚を買っていきます。わざと値札をとらないで渡すと、皆さん安くてびっくりしていい宣伝になっていると思います。

また総菜というか、浅漬けだとか赤飯・赤マンマとかって言いますが、そういう昔ながらの郷土の料理もあります。私たちは作れないがオガールでは売っているのでありがたく思っています。スーパーで夜半額で売っている魚より安いし新鮮です。浅漬けや赤飯とかの郷土の料理はその作れる人が貴重だと思います。またオガールでは生産者の名前や写真も分かるので、オガールで誰々さんの野菜が欲しいとかの指名がかなりあります。

■ 委員

それを活かして推しのイベントをやれば盛り上がると思います。オガールの売り場の POP をもっと表示して、もっと生産者をアピールするべきではないか。

■ 当局

皆様のオガールに対する期待の大きさにありがたく思っています。地域の食文化を残すというのも大事な視点です。赤飯・赤マンマの PR やそれを POP で表示していくこと、あと値段については、高い安い両方の意見がありましたけど物価の高騰の影響もあるのかなと感じました。我々も価格動向には注意深く調査していく必要も感じました。最終的には市民の方に応援していただける施設づくりが重要ですので、それについてはオガールと改めて話し合っていきます。

■ 当局

先ほどから、農水産物に対するご意見がありますけども、価格の高い安いというのは、それぞれの方の感じ方というものがあると思います。国の方で出した資料では、国民のアンケート結果では食べ物には安ければ安いほどいいという意見が多かったという結果が出ていました。一方で生産者のことを知ることによって農産物価格に対する理解が深まるという声もありました。そのようなことから、国でも市でも食育というものが重要で子供のころから、生産者のことを知り、食べ物のことを知ることが重要だと思いますので、市としてもそういったところから取り組んでいきたい。また、赤飯・赤マンマ等の生産者が自分で作って加工して販売という 6 次産業化の取組、そして直売という形式で、委員の方からは既存の生産者に対する支援との意見もありました。市では、農家の大規模化・効率化のためスマート農機の導入や農機具の導入に補助をしています。小規模な農家に対しても、地域の農地を守ってもらっていると考えておりますので、そういった方への支援の方策も考えていきたいと改めて思いました。

■ 会長

今回の総合計画の全体の方向性や構成に対して、委員の皆様からありましたらお願いします。

■ 委員

私の意見はマイノリティの意見かもしれませんが、国の政策で市もやらなければならないものもあると思いますが、例えば男女共同参画やエネルギー政策等があると思います。

少子化対策として男女共同参画が挙げられていますが、私はそれを推進することで少子化の方向へ進むのではないかと感じています。国では男女共同参画の講演会を開催するだけで何百万もの経費を掛けてやっているようですが、それってすごく無駄だなと思っています。各種委員会の女性委員の割合を上げるという目標もありますが、私は女性ですが、女性だから委員に選ばれるのはおかしくて、その委員にふさわしい人が男性でも女性でも関係なくやるべきであって、女性という理由だけで委員に選ばれるならそれが逆に差別になっている気がします。

また、エネルギー政策では、新屋の事故もあった状況の中で、風力発電自体で排出するCO₂は少ないかもしれませんが、風車を作るときや建設するとき、メンテナンスで船を出すときにたくさんCO₂が排出されていて矛盾しているのではないかと思います。国が推し進めているから、県もそれにならって、市もそれにならって推進しているのかもしれませんが、洋上風力を推し進めることによって、人材育成や経済面でいい面もありますが、市民としては健康被害や安全性の心配をしたり、風車が建設されて、その後何十年後に老朽化したときにどのような状態になっているのか心配しています。

■ 当局

前回の計画の中では、人口減少対策として男女共同参画を位置付けていましたが、今回は市民と築く持続可能なまちづくりの中へ位置付けています。その率や割合といったところでは、この後議論を深めていければなと思っています。よろしくお願いします。

■ 当局

国がやってるから県がやってるから市も右ならえでやっているのではなく、確かに国全体で目指す姿というのは2050年に0カーボンというカーボンニュートラルの取組もございますが、当然市としても地域としてもそういう世界的な公約に貢献していきたいという気持ちはあります。そのような中でも男鹿市としてのエネルギー政策に取り組んでいるという状況です。エネルギー政策に関しては賛否といいますか否までいなくても、どうなんだろうという意見も多数あることは我々も受け止めております。実際に導入といいますか事業を行うにあたっては、国や県がどう言っているということよりも男鹿市の中で地元での理解が得られるのかということが第一にならと思っています。我々も経済一辺倒でお金が儲かればいいという考え方、立場ではなく、理解が得られるかということがポイントになるわけですが、今回計画を策定していく中でどういった目的でエネルギー政策を進めようかということ、最終的に地域にどのような効果があるのかということ意識しながら考えていきたいと思っています。

■ 副市長

誤解のないように言っておきますが、少なくともこの総合計画の策定というものは一切、国なり県なりというものは関係ない。これはどこの市町村でもそうですが、全国 1,700 余りの自治体も同じで、県もそうでしょうけど、自分のところの県民・市民のために、これは大切だということを計画に盛り込んで計画を作るわけです。国の意向というものは一切関係ありません。しいて言えば「総合戦略」というものは、実は亡くなった安倍元総理が第二期安倍内閣の時に今の石破総理が地方創生担当大臣で、地方創生として全国で進めるので各市町村で計画を作るように、どこの市町村でも総合計画がありましたが、それとは別個に人口減少対策と地域の活性化に特化した総合戦略という計画を作らせられた経緯があります。見返りとして国からの交付金が増えるという制度でした。どこも財政的に厳しい市町村が多いものですからみんな総合戦略を作った。自前では厳しい市町村はコンサルに委託して作ったところもありました。これは確かに国に言われて作った計画といえるのかもしれませんが、国もある程度反省して、あまりにも計画を作られるのが多すぎるものですから、今、委員がご指摘したとおり努力義務ですよといいながら、作らざるを得ない制度にされている。

あくまでも今回の総合計画は市の判断で独自に作る計画ですので、委員の皆さんや市民の皆さんのご理解を頂いて策定する計画という基本的なスタンスですのでよろしくお願いいたします。

■ 委員

私が男鹿へ移住してきて約 8 年経ちました。漁業で言いますと年々進む温暖化の影響で魚が獲れなくなってきている、今年に限っては漁師さんも嘆いているくらい魚が獲れなく、私もなかなか魚が釣れない状況です。これは水温の変化の影響が大きいと思っています。これで最近思うことは海と山は繋がっているということが言われていますが、山がきれいだと森がきれいだと海がきれいになる。何十年先になるか分からないが、今からでも男鹿でもそのような活動をしていくべきと感じています。

そのことで海もプランクトンも集まって再び魚が獲れるのではないかと考えて、私自身も森に朽ち果てている木を薪ストーブ用の薪として活用する取組を始めています。微力ではありますが、少しずつ山をきれいにしていこうという思いが芽生え始めていて、このことは観光にもいい影響を与えていると思います。男鹿市内の道路を走っていても草だらけで汚い箇所もあります。それもどうにかならないかなと感じたりしますが、予算の関係とかもあるでしょうし仕方がないのかなと思っています。まずは自分の近場からきれいにしていきたいと考えています。

■ 当局

魚が獲れなくなってきているし、獲れる魚の種類も変わってきている状況と聞いています。また、ハタハタもほとんど獲れなくなっています。それに対して、新たな魚種に対応するための支援というメニューも用意していますが、また期間が長い話になりますが養殖の実証実験等も行っています。地域の人口減少や高齢化に伴い、林の下刈り等も出来なくなっている部分もありますのでカバーしなければいけないと対策を検討中であります。道路の草刈りに関しては予算をいくらかけてもキリがない部分もありますし、道路の管轄という面では、秋田地域振

興局の方とも協力して頑張っていきますのでよろしくお願いします。

■ 当局

委員の方から、自分のまわりからでもというお話がございましたが、それぞれの地域でも町内会の活動として清掃等を盛んにやっている町内もありますし、そういう意識の醸成というものが大切だと感じています。我々市役所だけでは難しいところも地域の方を協力して解決していきたいと考えており、そういうところも計画の中にうまく盛り込んでいければと思っています。

■ 会長

計画の構成のところで、人口減少対策としての重点戦略を3つ設定していますが、この3つの取組がどのように人口減少対策になっていくのかを上手く表現する必要があると思います。

人口減少対策というところをもっと前面に出すといいと思います。見せ方として。まちづくりと基本目標が同じというのももったいない気がします。目標をもう少し具体的にどのような市にしたいのかというところをもう少し明確にした方がいいと感じました。

■ 会長

次に案件の(4)「総合計画の策定スケジュールについて」説明願います。

■ 事務局(担当)

資料4に基づき「総合計画の策定スケジュールについて」説明

7 その他

事務局より、再度日程等を説明(省略)

8 閉会 17:25